

みんなで
知ろう

これからの廃炉と ALPS処理水について

世界にも前例のない東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業、それにともなうALPS処理水の処分について若い世代が知り、考へるのは大切なことです。経済産業省は、今年ALPS処理水の海洋放出が予定されるなか、高校生向けにワークショップを開催。参加者は廃炉やALPS処理水の海洋放出について学んだ後、意見やアイデアを交わしながら広告作りに取り組みました。ワークショップの様子を紹介します。

みんなで
知ろう

物質を含んだ汚染水になる
建屋内にある使用済み燃料の
取り出しや事故の際に燃料が
溶けて固まった燃料デブリの
取り出し、燃料デブリを冷却
するための水などが燃料デブ
リに触れて高い濃度の放射性
物質を含んだ汚染水になる

続いて講師は廃炉作業について説明しました。

「主な作業としては、原子炉建屋内にある使用済み燃料の取り出しや事故の際に燃料が溶けて固まった燃料デブリの取り出し、燃料デブリを冷却するための水などが燃料デブリに触れて高い濃度の放射性物質を含んだ汚染水になる」

**廃炉作業をより
前進させるために**

「多くの人が安全な環境で暮らすことができるよう、安全な社会をつくるために、私たちが何ができるかを考え、行動していきたい」と、参加者へ語りかけました。

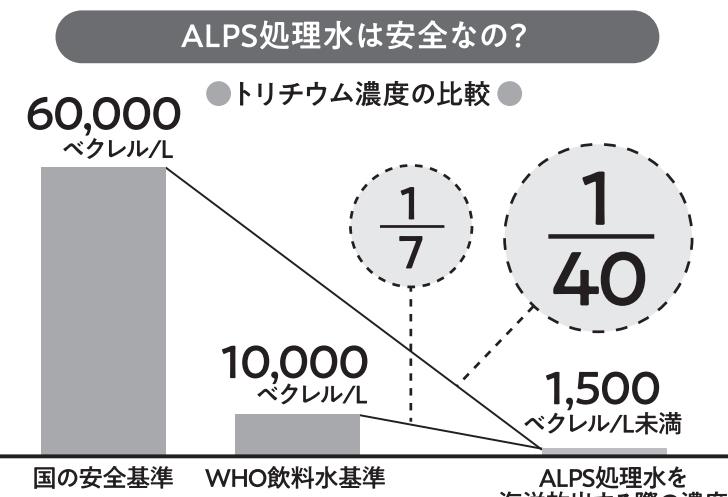


**復興の前提となる
廃炉をする**

2011年3月11日、甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生しました。福島第一原発は津波に襲われ電源を喪失し、冷却システムが停止。原子炉を冷やすことで燃料の溶融に至り、燃料の溶融の過程で発生した水素ガスにより水素爆発が発生し、放射性物質が環境中に放出されました。

事故から12年経ち、除染によって周辺地域の放射線量は下がり、一時は住めなくなつた町へ帰ることもできるようになりました。一方で避難生活を続けている方も多く、真の復興は道半ばであるといえます。

講師を務めた経産省の職員は宮城県出身。高校時代の震災体験もふまえながら「廃炉は安心して暮らせる環境を取り戻すための作業で、それが福島の復興の大前提になる」という思いで取り組んでいます」と、参加者へ語りかけました。



「どうしてALPS処理水が安全だと感じるのですか?」と、講師は答える。「ALPS処理水とは、汚染水についてトリチウム以外の放射性物質を安全基準を満たすまで浄化した水のことです」と説明。このALPS処理水は、長い議論と検討を経て、海洋へ放出する方針が決定しています。

ALPS処理水は海水で大幅に希釈し、トリチウム濃度を安全基準よりもはるかに低い濃度にした上で海に放出することとしています。

ALPS処理水は世界の原子力施設で規制基準を守って実施している方法です。ALPS処理水に残るトリチウムについても海水で1000倍以上に薄めて安全基準を守ります。

「この方法によ

て、海洋放出する

際のトリチウムの濃度は国の規制

基準を大幅に下

回る40分の1未満

になります。これ

はまた世界保健機

関(WHO)が定め

ている飲料水の基

準の約7分の1で、

安全性は確かに

す。国際原子力機

関(IAEA)の

考え方によ

り、ALPS処理水は安全

だと言えます。

ALPS処理水は安全

だと言えます。